

組織名	公益財団法人豊田都市交通研究所
-----	-----------------

1 組織概要

所在地	愛知県豊田市喜多町3-110 コモ・スクエア イースト 1階
TEL	0565-31-7543
FAX	0565-31-9888
URL	https://www.ttri.or.jp/
e-mail	res-manager@ttri.or.jp
設立	1991年3月1日
設置都市等	豊田市(外郭団体)
代表者	理事長 太田稔彦

2 組織動向

(1)沿革	
設置経緯	1993年3月に豊田市をフィールドとしてわが国の地方都市の交通問題について実践的な研究を行うという趣旨で、豊田市が「都市交通問題研究会」を改組しトヨタ自動車(株)などの民間企業と共同し愛知県認可の財団法人として設立。2010年4月には公益財団法人として愛知県より認定を受ける。
見直しの動向	■平成19年度に豊田市・トヨタ自動車と本研究所の三者で研究所のあり方検討会を設け、平成21年からの10年間を見据えた「中期ビジョン」を策定。その後、平成30年度からの5年間を見据えた「新中期ビジョン」を策定。 ■現在は令和5年度～9年度を対象期間とした第3次中期ビジョンに基づき、より地域に根ざし実践的な研究に取り組んでいる。
役割(2024年時点)	1.広義の都市交通の推進 2.交通まちづくりの推進 3.世界への情報発信と貢献
(2) 組織体制	
設置形態(択一)	☐ 自治体の内部組織 ☐ 常設の任意団体(提言等を行う会議体型の団体も含む) ☒ 公益法人(財団法人・社団法人) ☐ 大学の附置機関 ☐ 広域連合 ☐ その他(具体的に:)
常勤職員数	15 人
うち常勤研究員数	7 人
非常勤研究員数	0 人
専門性確保に関する特徴(複数選択可)	☒ 専門的な知識を有した研究員の採用 ☒ 外部有識者の活用(研究員として採用した者を除く) ☒ 大学・非営利活動法人等と連携した研究の実施 ☒ 設置市の企画部署と連携した研究の実施 ☒ 設置市の関係部署と連携した研究の実施 ☐ その他(具体的に:) ☐ 特に行っていない
庶務体制	専属職員1名、豊田市およびトヨタ自動車からの出向者4名により運営
市民参加、外部連携	大学・民間・行政職員により構成される研究企画委員会等を設置し、主に自主的に取り組む研究に対する助言を受けたり、共同研究を推進したりしている。また、研究員を講師役に「まちべん」と称した市民参加型の勉強会を毎月開催している。

(3)会計		
会計規模※人件費・間接費(オフィス賃借料、水道光熱費等)は含まない		
2024年度予算	24,531	千円
2023年度決算	19,421	千円
2022年度決算	23,068	千円
自治体の内部組織以外の団体の場合の事業活動収入の主な内訳 (多い順に選択)	順位	収入種別
	1位	基本財産運用収入
	2位	事業収入
	3位	
	4位	
自治体の内部組織の場合の事業活動収入の主な内訳 (多い順に選択)	順位	収入種別
	1位	
	2位	
	3位	
	4位	

3 活動動向

(1)活動実績		
定期刊行物	・まちと交通(年4部) ・豊田都市交通研究所年報(年1冊) ・研究成果報告会開催記録(年1冊)	
(2)活動のマネジメント状況		
ア テーマ決定 (複数選択可)	☒ ☒ ☒ ☒ ☐	設置市からの要請 外部有識者等からの助言・示唆 貴団体・組織で、設置市の総合計画等に明記された重要課題から選択 貴団体・組織で自ら発案 その他(具体的に:)
イ 情報発信 (複数選択可)	☒ ☒ ☒ ☒ ☒ ☒ ☐	設置市の議員や幹部職員に、報告や提言を行う 設置市の関係部署に、報告や提言を行う 設置市の庁内の広範囲に、成果物を配布する 報告会を実施する 日常的活動を、HP・メールマガジン・ニューズレター等で周知する その他(具体的に:設置市の市長に直接政策提言を行う場を設置している) 特に行っていない
ウ 活動の評価とその反映 (複数選択可)	☐ ☒ ☒ ☒ ☐ ☐	設置市の行政評価制度により評価を受けている 運営委員会等、貴団体・組織の運営に関わる機関から評価を受けている 外部有識者から評価を受けている 報告会・アンケート等の機会を設けて、評価を受けている その他(具体的に:) 特にそういう機会はない

4 特記事項

研究員の業務分担	・受託研究業務の実施 ・自主研究業務の実施 ・成果報告・アピールのための取り組み実施 ・関係機関等主催委員会への参加
研究員の専門性育成の手立て	・学会会議への参加推奨 ・学会等での論文等の発表状況を昇格基準の一つとして設定 ・定期勉強会の開催 ・セミナー等への参加推奨
研究員のキャリアパス等	・学術研究重視型：博士の学位取得／昇格要件として学術論文件数重視 ・実務研究重視型：修士の学位取得／技術士取得により昇格の学術論文必要数減 ・管理職研究員：博士の学位および技術士取得
その他	

5 2024年度に実施した調査研究

調査研究名	調査研究の概要
公共交通利用にかかる心のバリアフリー政策にかかる研究	愛知県教育委員会へのヒアリングを踏まえ、市内外の高等特別支援学校の教職員を対象に、生徒の公共交通通学に際しての心のバリア及び教育機関としての対応状況をヒアリングし、実態の傾向を把握しました。これを踏まえて生徒の通学時に同行調査を実施し、当事者の行動の傾向及び教職員の対応などに関する知見を得ることができました。
地域公共交通計画策定を背景とした地域組織の動向と課題	豊田市では地域住民の生活交通として地域バスが運行されていますが、それを面的に補足する共助運営を含めた交通サービスが検討されています。市からの研究業務委託と連携しながら、令和5年度に実施した自治区アンケートの詳細分析により、共助型の生活交通を適用しやすい地域を抽出しました。また、地域バスの改編を検討していた地域の支所や関係組織などの動向・意向をヒアリングにより確認し、今後の計画策定や円滑な地域運営に資する知見をまとめました。
徒歩生活圏における小さな交通手段の計画手法に関する研究	本研究では、人流データを用いて愛知県の徒歩実態を把握するとともに、その実態から「歩いて暮らしやすい地域」の要因を明らかにしました。結果として、全年代の8割は500mまでしか歩いていないこと、豊田市では市の中心部などの拠点地域核、山間部の地域核や交流促進拠点で徒歩移動が多いことが分かりました。また、比較的歩いている地域の特徴として、勾配が少ないこと、生活関連施設に加えて生きがい活動が達成できる施設も充実していることが分かりました。
豊田市の在日外国人ドライバーの実態に関する研究	2024年問題による自動車運送業における更なるドライバー不足の深刻化を受け、対策の1つとして注目を浴びる外国人材の登用に着目しました。豊田市の自動車運送業者（バス、タクシー、トラック）等における外国人ドライバーの現状、登用に関する課題、更には在日外国人及び、特定技能制度に対する期待について調査を行いました。令和7年度に引き続き調査を進め、外国人ドライバー登用につながる情報を、行政及び自動車運送業者に提供できるよう努めていきます。
危険箇所に関する現地での注意喚起と情報発信を組合せた交通安全啓発の効果検証	竜神地域会議の提言を基に企画された「移動式赤色回転灯を活用した危険箇所での交通安全啓発」について、高岡地区の4箇所での実証稼働の支援と効果検証を実施しました。その結果、赤色回転灯の設置時には速度抑制の効果があることが認められました。一方で、同一箇所に連日設置することは「慣れ」による速度抑制効果の低減を招く可能性があることも確認されました。以上の成果を踏まえ、今後は地域での交通安全啓発活動への赤色回転灯の活用が検討される予定です。
ドラレコデータを応用した交通安全コンテンツの考案	今年度は、ドライブレコーダーデータから得られるNear-crashケースの解析と、元データを応用した交通安全コンテンツの考案を目的としました。その結果、急加速や急減速といった運転行動の背景要因や発生状況に関する詳細な情報を得ることができました。また、交通安全コンテンツとして、急減速の発生状況パターン図や実際の場面の画像集を作成しました。
生活道路における安心感向上政策に関する研究	生活道路利用時の安心感を向上させる要素を導き出し、効果的な政策につなげるために、本年度は既往研究の整理を通じて生活道路利用時の安心感の仮説を検討しました。さらに、安心感を構成する要素の計測方法について検討し、交通の「速度」「質量」「発生確率(交通量)」に着眼した安心感計測を目指すべきこと及び当該条件を表現できる「動画」での調査ならびに実空間での検証を念頭に置いた調査設計をすべき点を明らかにしました。